

令和2年

江別市芸術文化活動 調査研究

<アンケートにご協力いただいた音楽施設、音楽関係者の皆様>

- 1 水野亜樹子(音楽教室)**
水野亜樹子(ピアニスト、オルガニスト)/指導はピアノと理論のみ
対象:子ども、音大受験生、大人
江別市中央町27-48/080-4040-1967/akkmzn@me.com
- 2 野幌教会ピアノ教室**
指導者:佐藤理恵、水野亜樹子、米本悦子
対象:幼児、児童、学生、音大受験生、大人
江別市野幌若葉町3-8/011-382-2706/月曜~金曜
nopporochurch@gmail.com
- 3 江別市民音楽振興会**
江別市広報で告知。年4回の演奏と講話、年2回のコンサート。
090-6267-2727
- 4 混声合唱団「樹」**
練習:大麻公民館/第2第・4水曜/19時~21時
- 5 宮武玲子ピアノ教室**
文京台南町59-9/090-9434-1414
- 6 江別女声コーラス**
今田千鶴子/江別市野幌末広町2-19/011-384-9213
指揮者:時岡牧子
毎週水曜/午後1:30~3:30/練習会場 中央公民館
- 7 花柳流日本舞踊**
花柳紀二郎/江別市野幌町62-8/011-385-4566
- 8 札幌斉藤会**
斎藤賢一/江別市野幌町79-30/011-381-0877
平成3年3月に民謡愛好者を集い、和楽器や津軽民謡、江差追分等、
子供斉藤会を設立。今年29年目を迎えています。その取り組みは伝統文
化の継承、育成並びに親睦交流、技術の向上を高め、全道・全国大会
をめざし、また地域文化の振興向上に寄与することを目的に活動を続
けています。
子供たちにとっては伝統文化に触れる機会を提供し、人間性豊かな成
長を願って、また社会に貢献できる人材の育成をしています。
年齢は問わず、どなたでも気軽に歓迎です。
- 9 すみれコーラス (2020.4より混声になりました)**
長谷川敬子/〒069-0832 江別市西野幌119
毎週火曜/午後1:00~3:00/野幌公民館(視聴覚室)
創立35年になりました。どなたでもお待ちしております。
- 10 江別混声合唱団**
笹 光一/011-386-1307/〒069-0862 江別市大麻栄町8-18
江別市で最も歴史のある合唱団です。混声合唱ならではの
美しいハーモニーと豊かな表現を目指し、練習に励んでおります。
- 11 混声合唱団ピアチェーレ**
野田繁利/〒069-0823 江別市緑ヶ丘24-12
090-0815-5364/011-384-0017
平成9年楽楽学園の専攻講座コースの講師をされていた成田友子
先生の呼び掛けで受講生が中心となって合唱団を結成、イタリア語
の「喜び・楽しみ」を表すPiacereから「混声合唱団ピアチェーレ」を名
付け、団名のように「喜び・楽しみ」そして元気に仲良く集って歌って
います。歌うことが生き甲斐となっている団員が多く、現指導者・成田久
美先生の国のために優しく素敵に編曲された楽譜を使って唱歌、懐メ
ロのほか幅広くレパートリーにチャレンジしています。団員募集中!
一緒に歌ってみませんか!
- 12 江別児童合唱団**
大麻公民館にて毎週木曜日/15:30~17:00
戀歌コーラス
大麻公民館にて月3回火曜日/10:00~12:00
連絡先/漢名(011-382-0460)
- 13 アイドール**
江別市大麻東町13 キングビル一階
- 14 Musicpub turnaround(ターンアラウンド)**
〒069-0813 江別市 野幌町59-8/011-385-0114
- 15 ツインコーラス**
毎週水曜日/19:00~21:00
(この1~3月は第1・3・5週/大麻公民館研修室1号)
「歳を取らない」声で爆笑しながらの合唱に参加しませんか?
見学・体験入団大歓迎
藤井啓代/090-2874-4971/江別市文京台東町15-14
- 16 藤井ひろよ(合唱指揮、声楽、ピアノ)**
090-2874-4971
・ピアノ…ソロ、伴奏、弾き歌い
・歌…童謡から日本歌曲、ドイツリート、オラトリオ、合唱まで、発声、
音取りから伴奏付きで指導
・合唱…合唱指導、指揮
楽譜の読み方、美技の不安解消、向上、お手伝いします。
- 17 澤崎支部野会(柴田宅)**
江別市野幌代々木町25-7/090-2698-2966(柴田)
一般民謡、三味線、尺八、太鼓を指導致します。

北翔大学 教育文化学部 教育学科 音楽コース

843研究室 連携調査事業研究チーム

代表 岡元敦司

はじめに

新型コロナウイルス感染症が流行して、我が国でも2020年4月7日に緊急事態宣言が発令されることになりました。このウイルスだけの歴史を考えれば、2002年から2003年に流行した重症急性呼吸器症候群(SARS)による感染症、2012年から流行した中東呼吸器症候群(MERS)による感染症に次いで今回の2019年より流行している新型コロナウイルスとなります。この新型コロナウイルスは瞬く間に世界に感染拡大し、私たちの健康的な生活を脅かしています。しかし同時に人類はこのウイルス以外にも様々な感染症との戦いを繰り返してきたことも事実です。1347年に遡れば、ペスト菌の大流行はヨーロッパの人口を半減させ、その影響は封建制の衰退を早めたのみならず、ルネサンス期における芸術や文学の推進に多大な影響を与えました。また1500年頃にアメリカ大陸で流行した天然痘は、当時の該当地域に住む先住民を減少させ、ヨーロッパ人のアメリカ侵略に大きく影響しました。感染症は健康を脅かすだけでなく文化の在り方そのものまで変えてしまいます。

緊急事態宣言が執行され、芸術文化のみならず様々なイベントや会合が「自粛要請」のもと中止、または延期され、芸術文化に取り巻く関係者全てが様々な困難に立ち向かうことになりました。更には国交まで閉ざされ、旅客便は欠航状態が長引き、多くの飲食業の経営が落ち込み、劇場や映画館、美術館、博物館など感染リスクの高い施設は閉鎖もしくは休業となり、軒並み「公共」とされる施設、イベントだけではなく、全ての人との関わりに社会的距離を取らなくてはいけなくなりました。そんな中ドイツのグリュッターズ連邦文化大臣は2020年3月11日に、収入源に直面する文化施設や芸術家に対する支援をいち早く開始し、同年3月23日には6兆円の助成金や融資として支援されました。理由として「アーティストは社会にとって不可欠であるだけでなく、とりわけ今は生きていくために欠かせない存在だ」と発表され、国境を超えた芸術文化に対する考え方とその一言が、我が国で文化事業に関わる私たちに一時の安堵を与えてくれました。世界中で芸術文化事業の支援が始まり、我が国においても芸術に対する見方が見直されただけではなく様々な支援策において改めて芸術文化を保持しようとする動きが始まりました。

本研究では、江別市における音楽活動調査と、江別市で活動する団体、個人、音楽教室等に行ったアンケートを基にして現状報告をする事を目的に、江別市が取り組んでいる対策を精査し、改めて現状における感染予防対策をまとめるための一資料として作成しました。

目次

| | |
|-------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 江別市の芸術文化活動について | 3 |
| 大麻公民館・えぼあホール | 5 |
| 野幌公民館 | 8 |
| 中央公民館・コミュニティセンター | 10 |
| 各公民館の音楽活動における利用状況について | 12 |
| 江別市市民会館について | 15 |
| 令和2年度江別市大学連携調査研究事業アンケート | 17 |
| 今後の音楽活動における感染予防対策について | 19 |
| おわりに | 21 |

江別市の芸術文化活動について

江別市は西南から北東にかけて3つの地域ごとにそれぞれ特色ある発展をしている。江別市の総人口は119,685人、江別地区47,112人、野幌地区43,107人、大麻地区29,466人(令和3年3月1日現在)となっている。江別市は2005年まで人口増加を続けており、125,601人を最高に推移し、その後は総体的に人口が減少している。同時に年少人口、生産年齢人口共は減少傾向にあり、老年人口は増加傾向にある典型的な少子高齢化現象が続いている。RESAS地域経済分析システムによると、2040年には総人口が10万人を下回る計算となり、この3つの地域は5,000から10,000人の減少が見込まれている。

江別市は添付のマップにあるように、町のシンボルでもあるレンガ造りが盛んだった野幌を中心に囲む3つの駅があり、鉄道と国道12号線が町のメインルートとなっている。主要な3駅がある大麻、野幌、江別にそれぞれ公民館があり、野幌江別間にある高砂駅付近に市民会館がある。このメインルート上に4つの会館がそれぞれの住居区の中心に有り、芸術文化の活動拠点として存在している。それぞれの地域色から野幌文化地区、大麻文化地区、江別文化地区の3つの文化地域に、教育、学術、文化に関する事業を行うための教育機関として、大麻公民館・えぼあホール(大麻地区)、野幌公民館(野幌地区)、中央公民館・コミュニティセンターが主要公民館として、またそれぞれのサテライト施設として地区センターが多数存在している。またこの3地区の中央に固定席で1005名収容可能の大ホール、250名収容の小ホールを構える江別市民会館(昭和47年設立)がある。本調査では、この3地区における主要公民館と市民会館の3年間の利用状況、各会館の感染予防対策について調査する。

【3地区における主要公民館の施設概要と定員(ピアノの設置された部屋)】

| | |
|------------------|--|
| 大麻公民館 昭和49年開館 | ホール(収容人数:453人固定席/フロア面積:580m ² /グランドピアノ2台) リハーサル室(フロア面積:121m ²) |
| えぼあホール 平成9年増設 | ギャラリー(フロア面積:118m ²) 研修室1号(収容人数:54/フロア面積:96m ² /グランドピアノ) 研修室2号(収容人数:108/フロア面積:166m ² /アップライトピアノ) 研修室3号(収容人数:36/フロア面積:63m ²) 研修室4号(収容人数:24/フロア面積:56m ² /電子ピアノ) 視聴覚室(収容人数:42) 和室1号(収容人数:24) 和室2号(収容人数:36) 工芸室(収容人数:36) 調理実習室(収容人数:36) |

| | |
|--|--|
| 野幌公民館 昭和59年 第2公民館から移転 | ホール(収容人数:350人ステージ有り/フロア面積:376m ² /グランドピアノ) ギャラリー(フロア面積:125m ²) 和室1号(収容人数:40人) 和室2号(収容人数:30人) 研修室1号(収容人数:20人) 研修室2号(収容人数:30人) 研修室3号(収容人数:30人) 研修室4号(収容人数:40人) 研修室5号(収容人数:60人) 調理実習室(収容人数:36人) 工芸室(収容人数:40人) 視聴覚室(収容人数:50人/アップライトピアノ) 児童室(収容人数:30人) 特別会議室(収容人数:10人) ※電子ピアノあり |
| 中央公民館 <2・3階部分> 昭和33年開館 コミュニティ センター <1階部分> 平成元年オープン | 多目的ホール(収容人数:450人/フロア面積:326m ² /グランドピアノ) ステージ(フロア面積:142m ²) ふれあい広場(フロア面積:151m ²) 会議室<1階>(収容人数:40人) 控室<1階>(収容人数:20人) 調理実習室(収容人数:36人) 児童室(収容人数:20人) 研修室1号<1階>(収容人数:40人) 研修室2号(収容人数:70人・アップライトピアノ) 研修室3号(収容人数:70人) 工芸室(収容人数:35人) 和室1号(収容人数:40人) 和室2号(主要人数:20人) ※電子ピアノあり(主に1階で使用) |

大麻公民館・えぼあホール

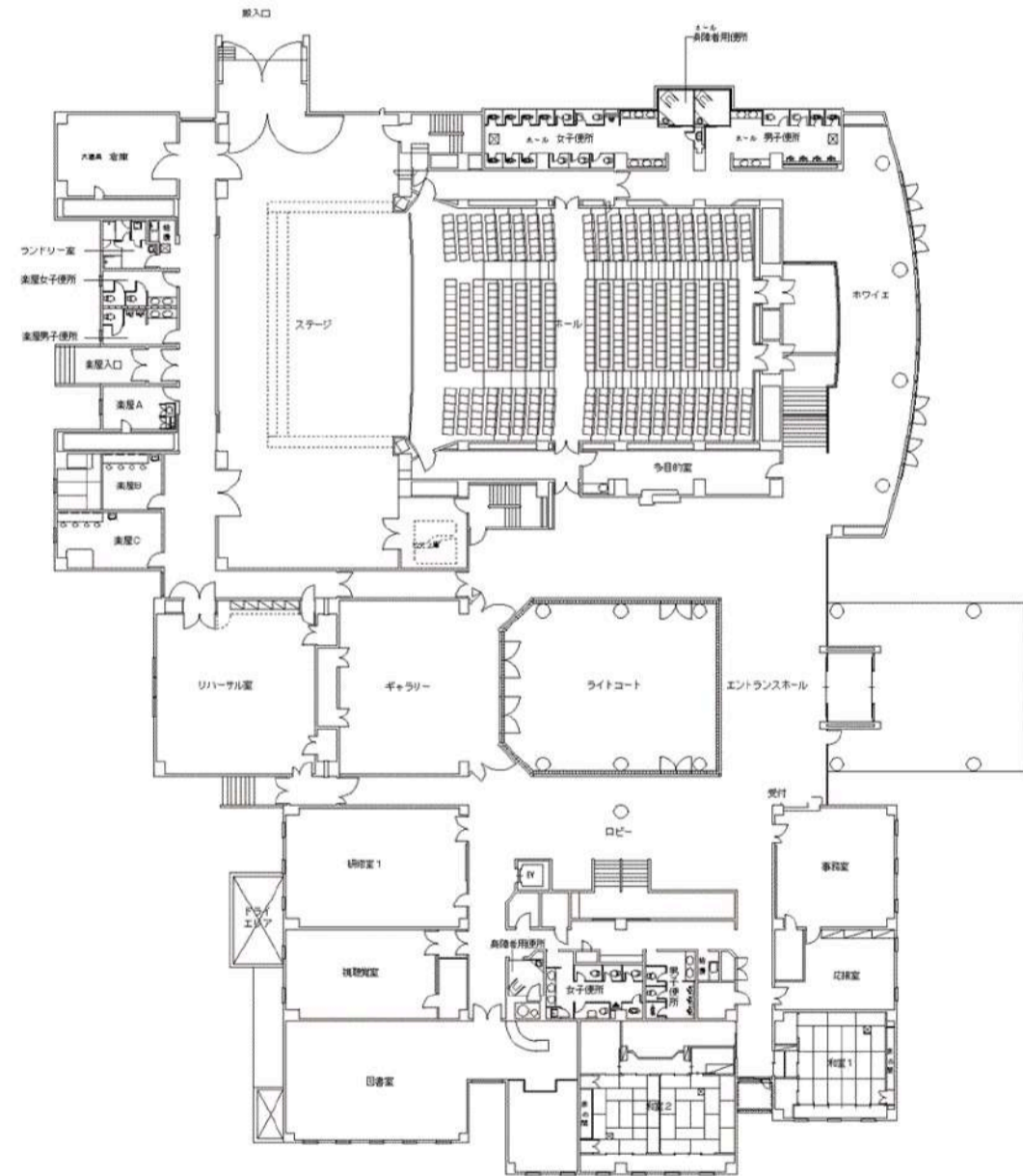
正式名称：江別市大麻公民館・江別市民文化ホール(えぼあホール)

〒069-0854 江別市大麻中町26-7

Tel:011-387-3315/Fax:011-387-3121

休館日：休館日は毎週月曜と年末年始(12月29日～1月3日) 10月・11月は月曜日も臨時開館

大麻公民館は昭和49年1月に大麻地区で待望の鉄筋コンクリート2階建(延面積1,121m²)が開館した。大麻地区の公民館教室が昭和45年11月より大麻出張所の会議室を借りてスタート、当時受講生が制限されるほど溢れ、大麻公民館開館後はそれまでの5教室から15教室が開かれるほどの人気があった。札幌学院大学と提携した「土曜公開講座」は現在の「江別市民カレッジ講座」、「ふるさと江別塾」として市役所・生涯学習課で引き継がれている。その他講演会、絵本の読み聞かせ、文庫活動等の図書館活動など独自色を出した事業に取り組んでいる。



えぼあホールは平成9年に開設された多目的ホール、図書室、研修室、ギャラリーなどを備えた公民館と一体化した複合施設である。館内のピアノ台数も多く、開館から現在まで音楽活動が盛んに行われている市民会館に次ぐ本格的なホールである。

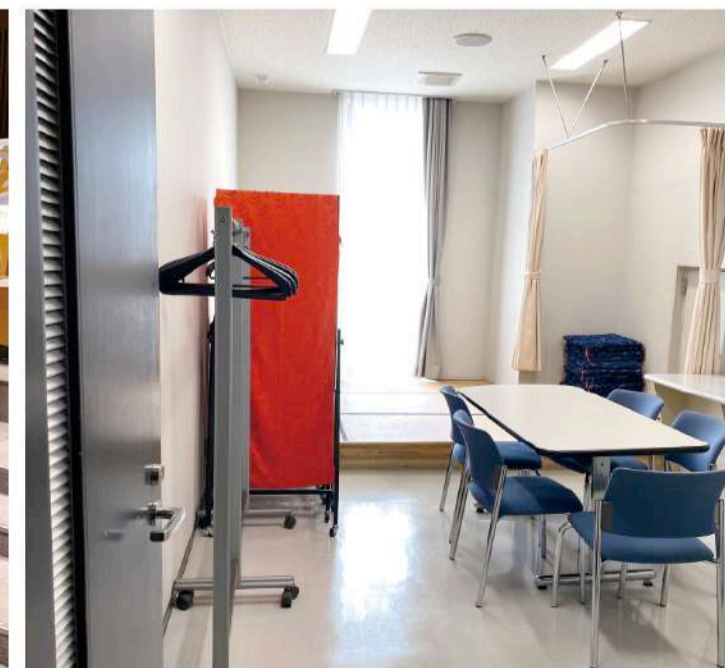
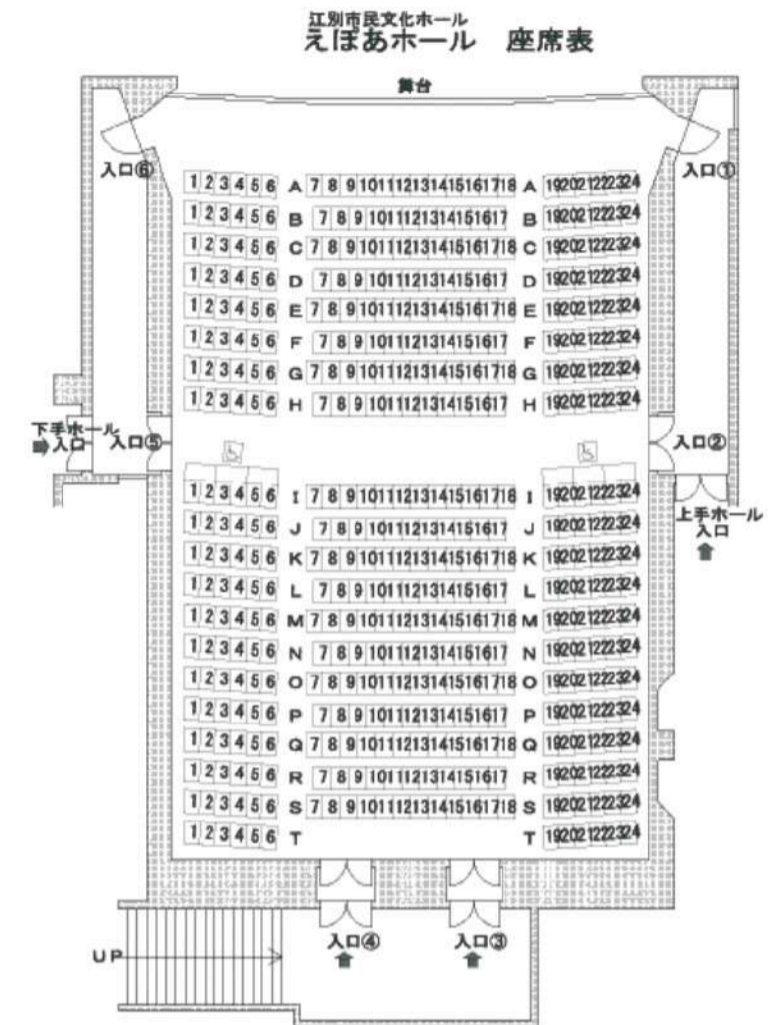
453席の固定席に車いす対応席を設けていて、ホール座席までの通路もゆとりがある設計となっている。感染予防対策の観点から、広いホワイエにつながっているホール後部席の扉と舞台上の搬入口を開ければ、効率よく外気換気が可能である。さらに、ホール天井に設置されたエアダクトにより換気システムが作動し、ホール内の換気が確保されている。

座席については1席ずつの間隔を開けた状態で有効座席数を確保するよう推奨されており、現状では約210～225席を確保、観客が密集しやすい入口付近の席を使用しないことにより密集リスクを軽減している。

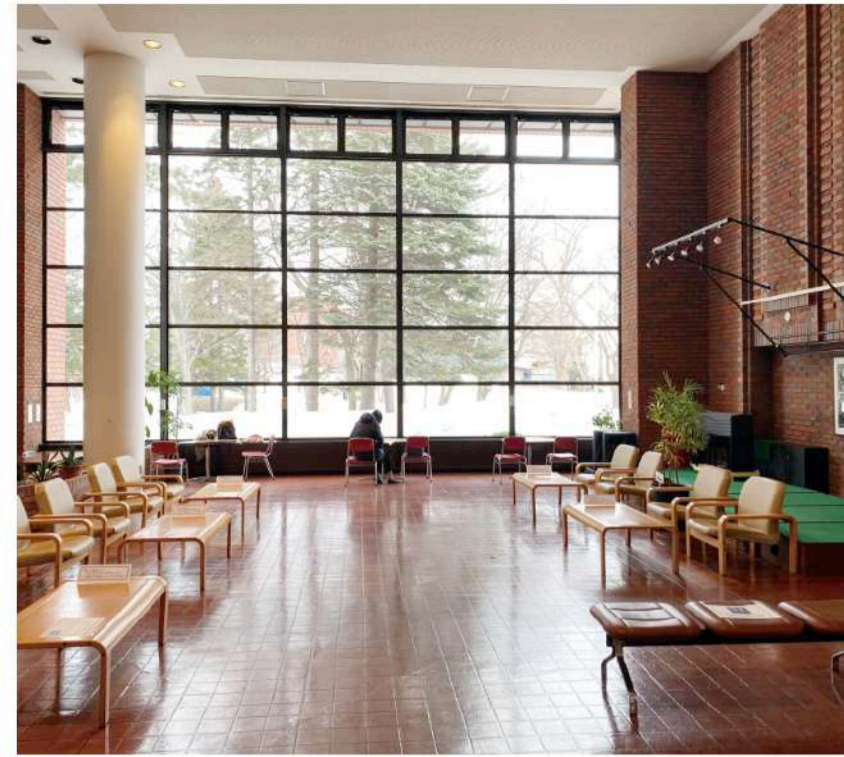
また最前列の座席から舞台までの距離を2m以上取ることができ、壇上からの飛沫防止、さらに舞台の下には換気をとるための吸入口があるので出演者と観客との空気感染リスクを軽減している。

ホール入り口から座席へ移動するときの通路も幅が広く、中央の通路は丁度舞台と同じ高さになっている。公演時の観客の導線については、フロア図面からも分かるようにエントランスから入って右折すると受付設置スペース、そのまま左手の入り口⑤⑥に流れるパターンと、または受付から右手にあるホワイエを通過して入り口①②へ流れるパターン、ホワイエから階段を上ってホール後部座席の入り口③④に流れるパターンの3通りの導線を作ることができる。

楽屋は、奥行きのある舞台裏の両側にある出入り口につながった広い廊下に添って3室有り、どの部屋も窓があるために換気をしやすい。



玄関ホールから左手に事務所、右手は開放的なロビーがあり、その奥にはギャラリーを兼ね備えている。ロビーには電子ピアノもあり、大きな窓に囲まれたロビーは残響が長い。窓天井部は開閉可能なので、外気換気もでき、天井も高いのでギャラリーは閉塞感を感じない。オープンスペースとして利用可能で、密集リスクを避けた空間を演出できるので、ロビーとギャラリーをつなげて音楽と美術に一体感を感じるイベントが実現できるだろう。



ホールは固定席ではないので、自由に間隔を開けて椅子を設置できる。天井は高く、エアダクトによる循環換気が行われているので館内の空気循環はあるが、不十分な場合は、外気換気を行う必要がある。外気換気を行う場合は窓側にある扉と、舞台袖にある扉を開放し換気を行うことができる。十分に行えない場合は大型のファンを用いて換気を促進させるべきであろう。

ホールは現在最大350人取容人数のホールを大体100席前後の設置利用で勤めている。視聴覚室についても50%の定員25名程度を目安に利用、窓を開けて換気等、マスクや消毒等心がけながら、現在も定期利用している合唱団や民謡などのグループがあるが活動は かなり制限されている。

野幌地区は煉瓦造りの拠点と言うこともあり、野幌窯業は現在まで、江別市セラミックアートセンターやガラス工芸館などで展開する工芸、美術に力を注いできた特色を持っている。それぞれの地区センターではカラオケ等での施設利用はあるがピアノ等楽器の設置はなく、現状ではどの地区センターも音楽活動が休止されている状況である。



中央公民館・コミュニティセンター

正式名称：江別市中央公民館・江別市コミュニティセンター

〒067-0013 江別市3条5丁目11-1

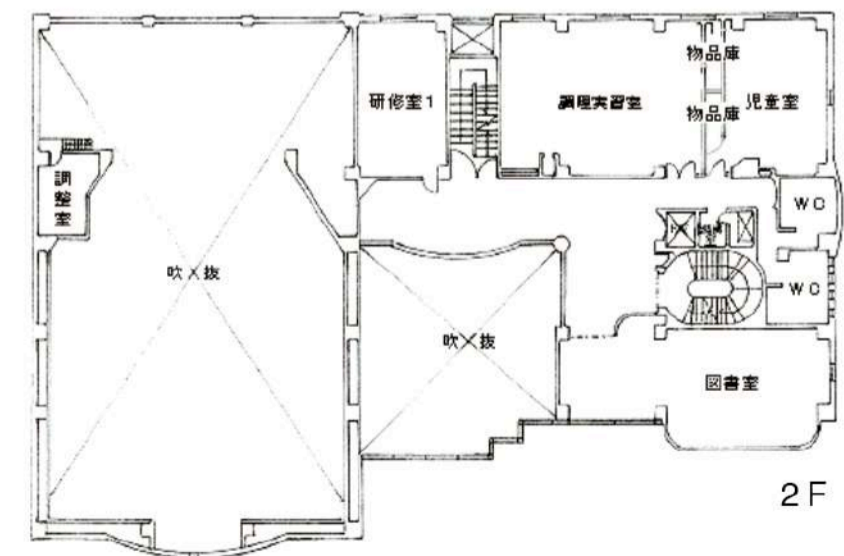
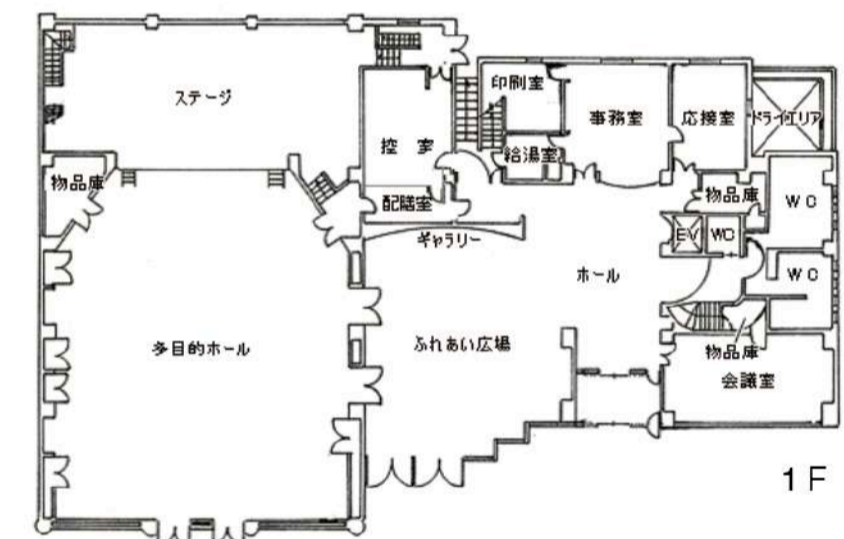
Tel:011-382-2376/Fax:011-382-2335

休館日：休館日は毎週月曜と年末年始(12月29日～1月3日) 10月・11月は月曜日も臨時開館

現在の中央公民館は平成元年9月にコミュニティセンターと併設され、江別駅前地区にオープンした。昭和33年8月に中央公民館が開館して以来、市民の芸術文化、生活文化、さらには図書館活動などの拠点として利用されている。駅前地区の市街地活性化という役割を担った複合施設として、当時はイベントロードと一体となった利用により、やきもの市や八つ目ウナギ祭などユニークな催しも行われ、郷土美術作家シリーズなど特色のある地域連携活動の実施、また市民大学講座は、現在の「江別市民カレッジ講座」、「ふるさと江別塾」として市役所・生涯学習課に引き継がれている。

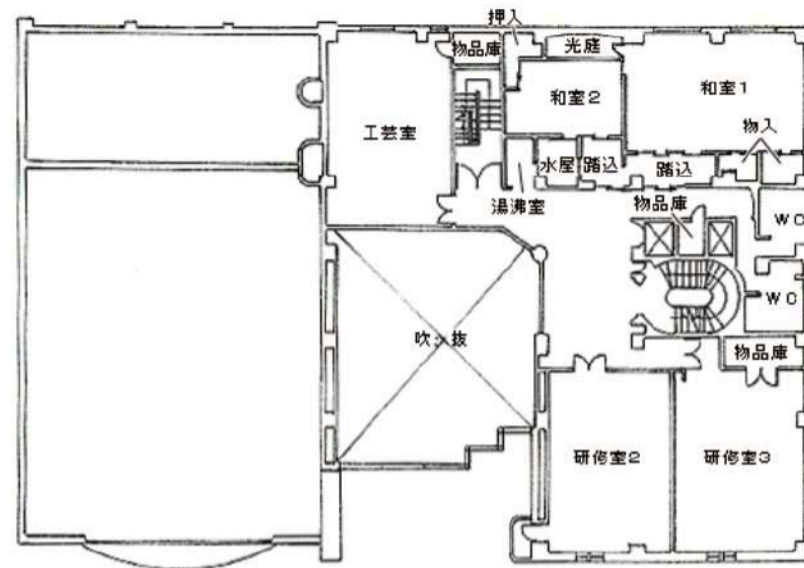
3階建てで印象的な煉瓦造りを施している中央公民館は、コミュニティセンターとして1階部分、中央公民館としての施設は 2、3階部分と分けられている。

1階部分はエントランスからホール、ふれあい広場がつながっており、高い天井やガラス壁など開放的である。多目的ホールの扉を開放するとふれあい広場につながり、それぞれ外気を取り入れる為の窓やドアを開けると外気循環しやすい設計となっている。2階部分についてはフロア図面のように、吹き抜け部分から二つの階段に流れるような空気循環があり、各室の扉が吹き抜け部分に向けて設置されているので、それぞれのドアと窓を開放する事により空気循環率を良くすることができる。1階部分にある電子ピアノは会議室やふれあい広場に設置可能で、多目的ホールのイベントに関連した美術、工芸の発表、もしくはステージとふれあい広場を利用した音楽イベントなど多角化した展開が可能である。

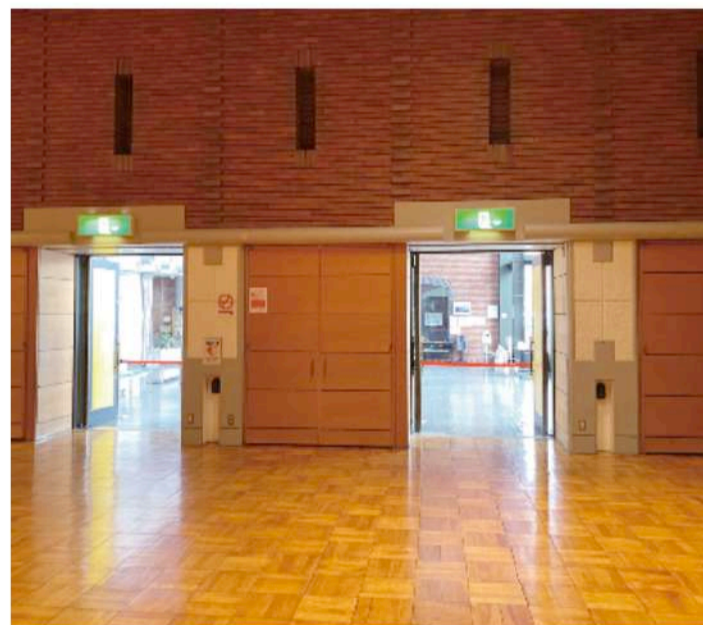
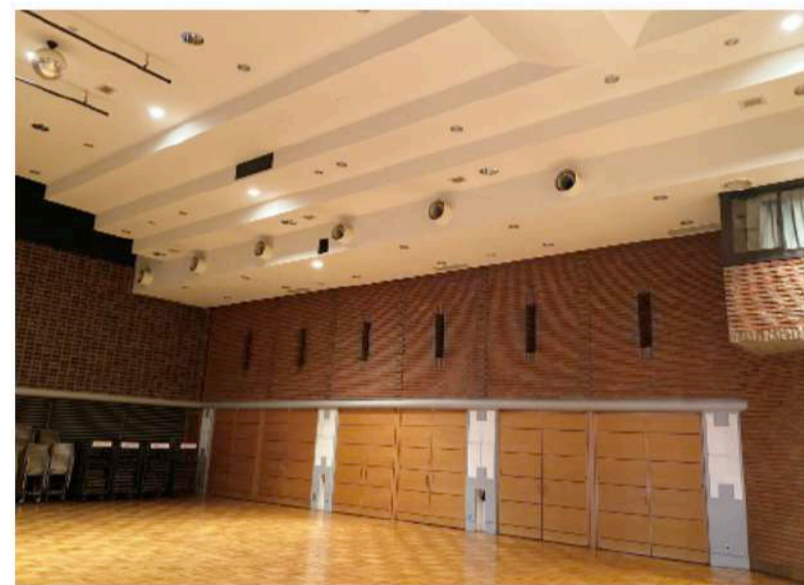


3階部分にある研修室2号と3号は1室として利用可能で、140人収容可能なスペースとなる。現在はその50%を目安として利用を推奨しているが、小規模な団体にとってはより密集を避けた環境を確保できる。

多目的ホールは、固定席ではないので、おおよそ450人分の座席を設置できる。天井は高く、複数のエアダクトによりホール内換気を行っている。外気換気を行う場合はふれあい広場側の扉を開放し、ホール内にある搬入口を開放することにより行うことができる。またステージ下部には地下収納庫があり、通気口的な役割を果たしている。固定席ではないのでステージから客席の間隔も幅広く保つことが可能で、音楽ジャンルによって適した飛沫感染防止対策を取ることができる。



3F



残響の長いホール設定になっているので合唱や声楽の発表に適しているだろう。舞台右側に控え室があり、控え室を通して、エントランスホールにつながるドアとステージ奥にある扉から外気を取り入れる事でステージ上の換気が可能である。中央公民館は最も歴史のある会館として、活動歴の長い合唱団や文化団体が多く利用している重要な集会所として、例年開催されているコミセン祭りや音楽講座などが開催されているがこのコロナ禍で活動が休止されている。

音楽活動の各公民館利用回数

江別市の文化3地区における公民館、野幌公民館、大麻公民館(えぼあホール)、中央公民館(コミュニティセンター)の過去3年間の音楽活動における利用回数を以下の表にまとめている。

| H30年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 野幌公民館 | 63 | 74 | 68 | 77 | 81 | 71 | 71 | 67 | 63 | 59 | 72 | 85 | 851 |
| 大麻公民館 えぼあホール | 265 | 209 | 237 | 265 | 236 | 213 | 308 | 219 | 241 | 190 | 208 | 245 | 2836 |
| 中央公民館 コミセン | 55 | 63 | 62 | 62 | 56 | 53 | 56 | 58 | 53 | 46 | 57 | 61 | 682 |
| 合計 | 383 | 346 | 367 | 404 | 373 | 337 | 435 | 344 | 357 | 295 | 337 | 391 | 4369 |

平成30年度は新型コロナウイルスが流行する前の通常利用回数を表している。この表から見ても、大麻公民館の音楽活動が盛んに行われている事が分かる。大麻地区が音楽活動を盛んに行う特色を持っている地域としてその要因を地域特性から下記に挙げる。

- ホール所有のピアノ台数と音楽活動で利用できる研修室が多いこと。
- 周辺の地区センター(大麻西地区センター、大麻東地区センター)にピアノがあり、連携した利用により、定期的な練習が行いやすいこと。
- 昭和40年以降江別市文化協会、江別市文化振興会が発足し、開館後、公民館が担う成人教育として公民館教室等の公民館活動が地域的に充実化したこと。
- 昭和48年市民会館開館、昭和49年大麻公民館開館が江別市全体に急速な文化向上を煽り、大麻地区の公民館教室の規模が拡大したこと。
- 昭和44年大麻女声コーラス等のPTA活動を母体とした合唱団や婦人会が活動を活発化させ、大麻ファミリーコンサートなどを発案する活動歴の長い音楽愛好家が多いこと。

一方、野幌公民館は通常59～85回の利用回数、中央公民館は46～63回の利用回数と1年を通して比較的安定した利用回数を表している。大麻公民館は190～308回と、平成30年度はかなり毎月の変動があることが分かる。一年を通してみると、10月435回、7月404回、3月391回が利用回数の多い月となる。

| R元年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|------|
| 野幌公民館 | 78 | 73 | 76 | 83 | 72 | 79 | 79 | 67 | 56 | 65 | 56 | 1 | 785 |
| 大麻公民館 えぼあホール | 273 | 217 | 234 | 255 | 244 | 230 | 254 | 219 | 228 | 183 | 197 | 1 | 2535 |
| 中央公民館 コミセン | 54 | 69 | 69 | 69 | 55 | 52 | 59 | 61 | 58 | 45 | 52 | 1 | 644 |
| 合計 | 405 | 359 | 379 | 407 | 371 | 361 | 392 | 347 | 342 | 293 | 305 | 3 | 3964 |

令和元年度は新型コロナウイルスが判明した1月から3月を除いて利用回数の幅をみると、野幌公民館が56～83回、中央公民館は52～69回、大麻公民館は217～273回の利用回数となっている。1月から3月の落ち込みを見ると、この年度は既に新型コロナウイルスの影響を受けていることが分かる。令和元年度の12月から1月初旬に新型肺炎の発見報道、1月31日はWHOが緊急事態宣言を発令し、2月はダイヤモンドプリンセス号艦内感染といったニュースが流れている。1、2月をコロナウィルスの初期影響としてその推移を見てみると、1月はほぼ例年並みだが、2月におよそ10%の落ち込みがある。3月はいち早く公民館と利用者は対策を取り、全ての利用を感染拡大防止策として中止、または延期としている。

令和元年度の最も利用回数の多い月は7月407回、次いで4月405回、10月392回となっているが、1月から3月の利用回数減少により1年間の利用回数の合計は昨年と比べると400名ほど落ち込んでいる。

| R2年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------------|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 野幌公民館 | 27 | 0 | 18 | 35 | 37 | 59 | 60 | 39 | 37 | 33 | 43 | 46 | 434 |
| 大麻公民館 えぼあホール | 53 | 0 | 108 | 149 | 145 | 180 | 166 | 157 | 130 | 111 | 122 | 139 | 1460 |
| 中央公民館 コミセン | 10 | 0 | 17 | 39 | 42 | 56 | 59 | 40 | 30 | 35 | 38 | 51 | 417 |
| 合計 | 90 | 0 | 143 | 223 | 224 | 295 | 285 | 236 | 197 | 179 | 203 | 236 | 2311 |

令和2年度は、4月16日緊急事態宣言が発令、国内の感染拡大に伴い音楽団体は大きく活動を自粛している。4月に入って活動を再開した団体もあるが、道内の感染状況も悪化し、5月に休館措置、6月からは感染予防対策をとりながらの利用となっている。利用回数は9月の295回、10月の285回、11月236回が利用回数の多い月となっている。9月には北海道スタイルとして集会を伴う活動の感染予防対策マニュアルが作られ、9月から12月頭まで活動を再開したところもあるが、再度感染拡大に伴い12月中旬から1月は大きく利用が落ち込んでいる。6月は58%減、7月は45%減、8月は40%減、9月には約20%減まで持ち直しているが10月35%減、11月32%減、12月は45%減、その後、1月から3月は40%減まで利用回数が回復してきている。いずれにしても江別市としては音楽活動の中でも利用率の高い歌唱を伴う活動が制限されたことや、吹奏楽器などの活動についてもリスクが高いとされ、多くの団体が活動休止をしている状況である。

公民館の中でも歌唱活動が盛んな大麻公民館・えぼあホールでは100近い活動団体が活動停止状況になっている。その反面リスクが低いとされている活動は休止されていないため、公民館の利用回数はある一定の回数を維持している。

<現在活動をしている音楽形態>

管弦楽(少人数に限るアンサンブル)、ジャズ、吹奏楽、民族音楽、歌謡曲、民謡、舞踊、雅楽、能楽、邦舞等

<現在活動を休止している音楽形態>

合唱、声楽やオペラ、ミュージカル、社交ダンス等

合唱や社交ダンスに関しては、特に高齢者が多いサークルや団体は活動自粛をしている状況だが、江別市や会館が独自で感染予防チェックリストを作成し、感染リスクの高い活動については、お互いの間隔やマスク着用、換気、もしくは広い部屋で収容人数の50%以下を推奨するなど、会館が独自に利用者に声かけを徹底する事や、予防対策情報の共有により、利用回数は少しずつ戻ってきている状況だと考えられる。

各公民館は設立当初より連携した事業展開を行っており、各文化祭など催しの時期や各地域の特色を活かした企画内容など出演者、参加者が競合しないように心がけている。本年度はコロナ禍によって練習不足や参加者不足などの要因により中止となっているが本年度は少しずつ企画されている。

一方で感染予防対策が徹底化されたとしても、令和2年度のように定期的な練習を確保できなかったことや参加者の不安、高齢者が多いことで中止の決断や、突然の感染拡大により休館となることも想定しなくてはならないリスクを今後の企画者は抱えなくてはならない。

| H30年度 | H30 | R元 | R2前期 | R2後期 | 合計 |
|-------|-----|----|------|------|----|
| 江別市 | 12 | 10 | 1 | 3 | 26 |
| 教育委員会 | 26 | 32 | 1 | 6 | 65 |
| 合計 | 38 | 42 | 2 | 9 | 91 |

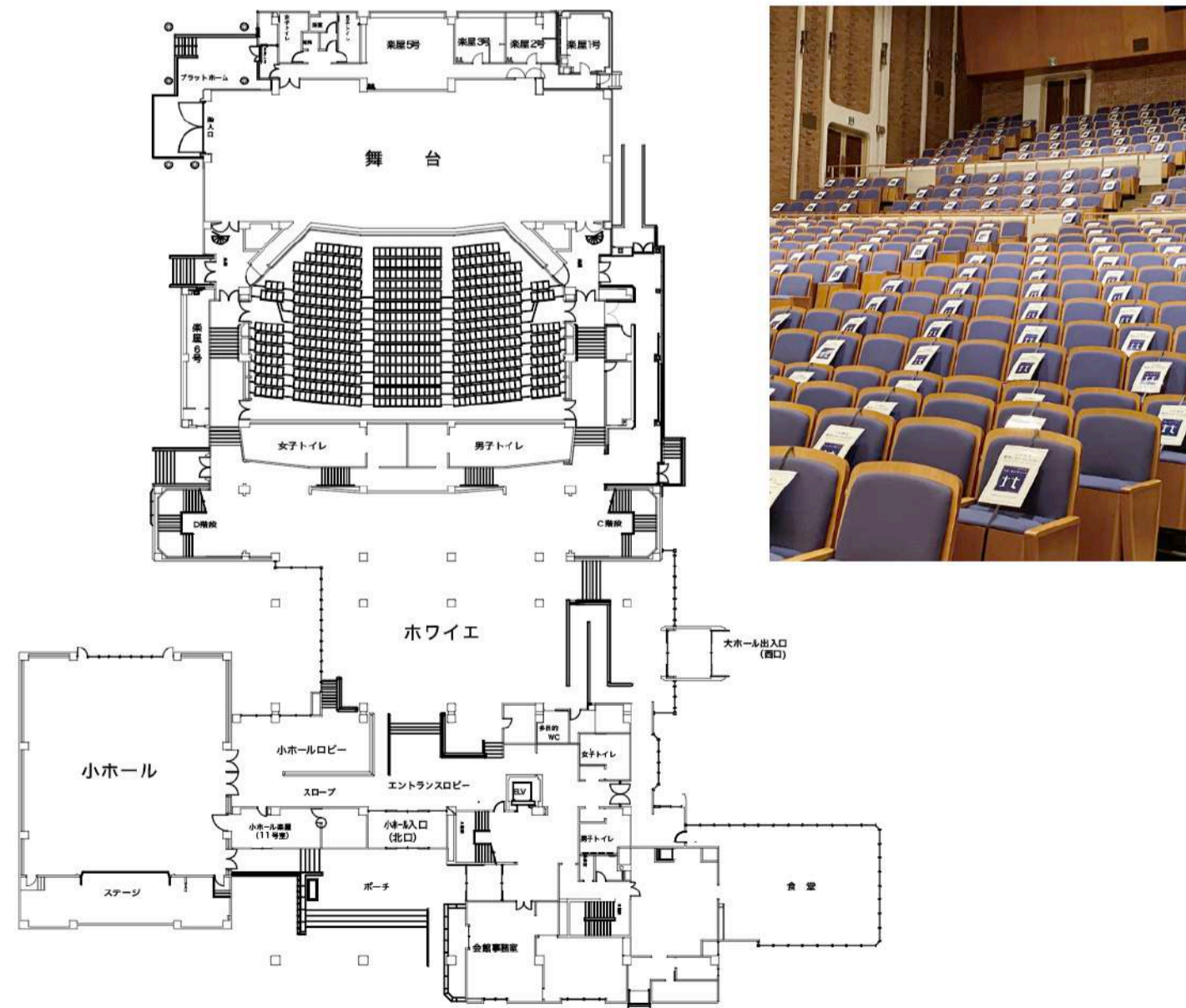
平成30年度からの後援申請状況を見ると、令和2年度の江別市、江別市教育委員会の後援を受けた演奏会が非常に少ないことが分かる。この状況から考えると、実施できている公演は例年の約30%にも満たないであろう。

江別市市民会館について

市民会館 正式名称:江別市民会館

〒067-0074 江別市高砂町6
Tel:011-383-6446/Fax:011-381-1077/受付時間:午前9時～午後7時30分

昭和48年5月に開館した市民会館は 江別市における3文化地区の江別駅と野幌駅の真ん中にある高砂駅から国道12号線に向かってまっすぐ進み、国道に面した市役所と同じ区画に建設された。市民会館は地上3階、地下1階で建築面積5,831m²、大ホール(1005席)と小ホール(250人収容)、9つの会議室、2つの和室、当時は結婚式場などを兼ね備えていた。当時は開館にあたり大ホールを舞台とした合唱団230名と札幌交響楽団による“江別讃歌・合唱の夕べ”や野幌太太神楽保存会、江別箏曲会などが公演され華やかなこけら落としとなった。また1階の小ホールでも絵画展、書道展、フォークソングなどの催しが行われ、現在に至るまで江別市の文化活動に大きく貢献している。また昭和49年に大麻公民館が開館することも踏まえて、当時地域では複数の文化団体が発足、合唱団についてもコール・ソルブス、大麻コール・サルビア、第三中PTA合唱サークル、江別男声合唱団、江別女声コーラスなどが次々と誕生した。



大ホールは現在感染予防対策として1席ごと間隔を開けて客席を配備している。前列を1列取り外した状態で舞台から十分な間隔を開け、座席は486席で対応している。9つの入り口は開放した状態のままでも使用することが可能である。入り口から座席までの通路は幅広く、密接を避け、高い天井にはエアダクトが配備されており1時間に1回10%の外気を取り入れるように設定されている。

小ホールは固定席ではないので、様々な利用方法に応えることができる。間口18.10m、奥行17.20m、高さ4mの室内空間に最大280脚の椅子を常備している。換気はエアダクトとエアコンを使いながら室内の空気循環を行っていて、入り口の扉を開ければエントランスロビーに外気が抜けるので、小ホール入り口(北口)を開放すれば外気換気が可能である。フロア図面では大ホールの入り口は西口となっており直接ホワイエにつながっているが、受付の設置を入り口付近で構えると比較的観客が混雑しやすい設計となっているように見受けられる。舞台は幅広いが、舞台裏の楽屋1号から3号まで窓がなく通路も狭いので出演者が密集しないように計画的な利用が求められるであろう。楽屋5号はオープンスペースなので、楽屋入り口から適度な通気が可能であれば利用しやすい。

| 市民会館 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------|---------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| H30年度 | 利用者数(名) | 17,097 | 9,532 | 9,189 | 13,074 | 8,568 | 7,452 | 17,291 | 15,584 | 14,509 | 11,356 | 12,842 | 17,259 |
| | 利用件数(件) | 467.5 | 422.2 | 393.2 | 460.8 | 411.5 | 316.7 | 556.4 | 601.6 | 358.5 | 515.4 | 484.7 | 581.1 |
| R1年度 | 利用者数(名) | 36,928 | 6,480 | 11,762 | 28,851 | 9,898 | 11,044 | 13,925 | 14,359 | 12,804 | 8,089 | 9,452 | 3,504 |
| | 利用件数(件) | 564.5 | 426.3 | 468.7 | 629.2 | 392.0 | 414.0 | 565.7 | 548.5 | 314.6 | 363.8 | 477.5 | 278.9 |
| R2年度 | 利用者数(名) | 2,712 | 2,050 | 2,769 | 5,155 | 4,013 | 4,716 | 7,706 | 5,269 | 3,727 | 2,619 | 7,914 | |
| | 利用件数(件) | 258.7 | 276.8 | 340.7 | 440.7 | 480.3 | 449.4 | 568.3 | 585.6 | 501.8 | 352.3 | 483.8 | |

市民会館の平成30年度から3年間の利用者数と利用件数について上記の表に記している。

どちらも音楽に限ったことではないので公民館との比較はできないが、全体の動きがよく分かる。

市民会館も公民館と同じように10月、11月、1月から4月が比較的用件数が多い。ただ市民会館は会議室の利用が多いので選挙や市の催し、また会館主催イベントの規模によっても大きく変動するので利用者数と利用件数の数字を比べなくては状況が見えてこないが、市民会館の利用回数だけを見ても令和1年度の11月頃より利用者・利用件数の減少が続いている。利用者と件数の比率から見ると明らかに新型コロナウイルスの影響として1月の減少が目立つ。

| 公民館 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|---------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| R1-H30 | 利用者数(名) | 19,831 | -3,052 | 2,573 | 15,777 | 1,330 | 3,592 | -3,366 | -1,225 | -1,705 | -3,267 | -3,390 | -13,755 |
| | 利用件数(件) | 97.0 | 4.1 | 75.5 | 168.4 | -19.5 | 97.3 | 9.3 | -53.1 | -43.9 | -151.6 | -7.2 | -302.2 |
| R2-R1 | 利用者数(名) | 34,216 | 4,430 | 8,993 | 23,696 | 5,885 | 6,328 | 6,219 | 9,090 | 9,077 | 5,470 | 1,538 | 3,504 |
| | 利用件数(件) | 305.8 | 149.5 | 128.0 | 188.5 | -88.3 | -35.4 | -2.6 | -37.1 | -187.2 | 11.5 | -6.3 | 278.9 |

公民館は令和1年度の3月から5月に欠けてほとんどの音楽活動が休止されていたが、市民会館もほぼ同じ状況で、表の件数は会議室の利用等の回数が計上されていると考えられる。特に令和2年度の6月以降は利用件数がかかり回復してきているが、この要因も広い部屋での会議利用が増えている結果として捉えられる。結果的に件数は回復しているが利用者数が大幅に少ない状況が続いており、音楽活動の回復はなかなか見えてきていない。

江別市大学連携調査研究事業アンケートについて

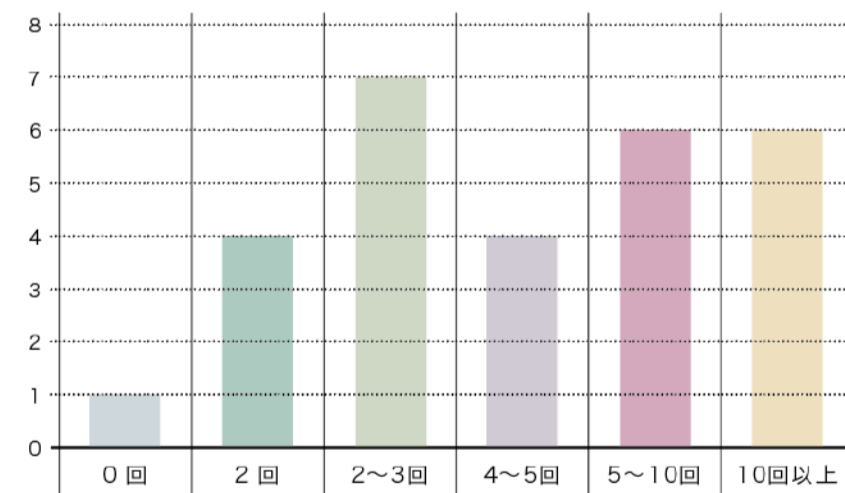
江別市を拠点に活動する音楽団体、音楽教室を中心に現状調査を実施し、約30団体の回答を得ることが出来た。

【目的】 江別市において文化活動(音楽)を行っている団体、教室、個人に、音楽活動調査アンケートを実施し、実態調査を行う。

- 2018年(平成30年度)、2019年度(平成31年度)の活動調査
- 2020年(令和元年)コロナウィルス感染予防対策における活動調査
- 2021年発行予定“江別市アートマップ”(仮)について希望調査(※)
※今回の調査では同一冊子に掲載という形に置き換えられた。

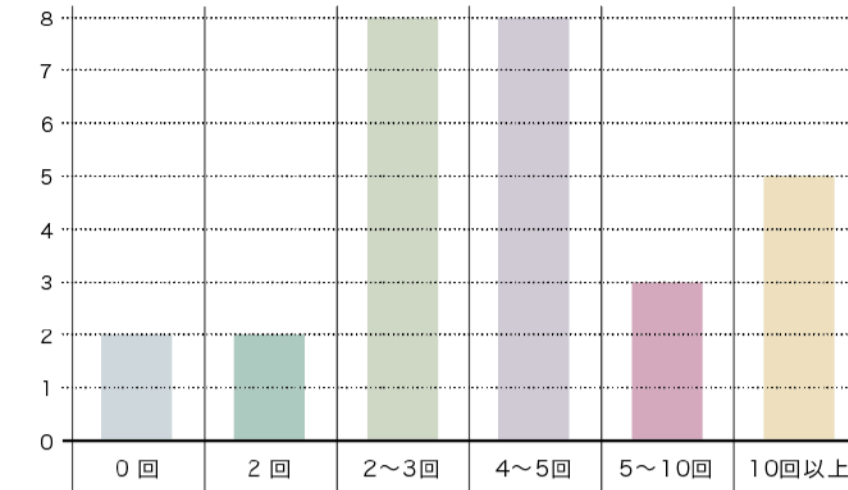
アンケートにご協力いただいた半数は団体主催者で、その30%が30年以上の活動歴を持っている。江別市にて芸術文化活動を行っている団体で、所属している人数は10～20名の団体が8団体、21～35名の団体は6団体、40名以上の団体は1団体と回答している。それらの内訳は30%以上合唱団体となっている。音楽教室の場合は、ほとんどの教室の生徒数が15名以下だが、26～35名といった大型の音楽教室も回答している。団体の活動回数に関しては全体の約半数が毎週一回の活動を行っている。音楽教室に関しては毎週平均5～10回程度のレッスン回数と回答している。

H30年度の
イベント回数



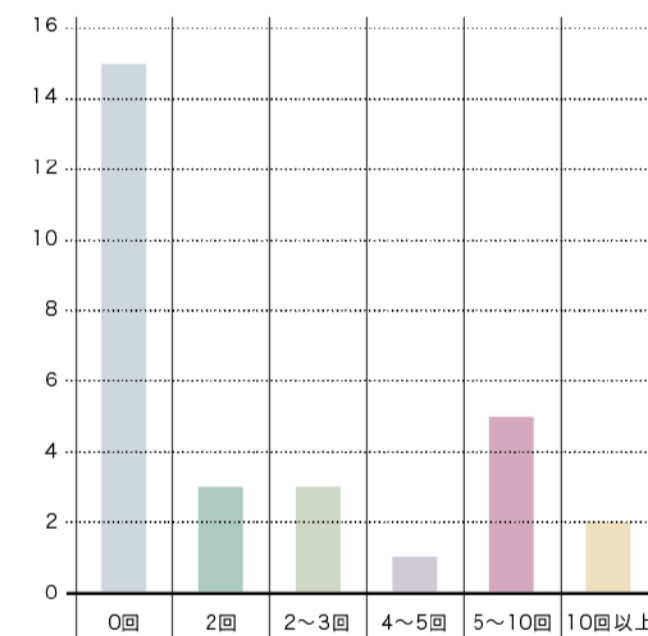
平成30年度はこの3年間の中で最も会館の使用率が高い年で、各団体、音楽教室、個人共に活動状況は良好である。実施した項目として、ピアノ、ヴァイオリン等の発表会、オペラガラコンサート、ライブ、スプリングコンサート、秋のコンサート、また例年音楽祭を実施している団体が多く、市民合唱祭、江別市民文化祭、大正琴フェスティバル、子供文化祭、ななかまどコンサート、えべつ合唱の輪、江別市民文化祭民踊熱唱大会、などがあげられている。

R元年度の
イベント回数

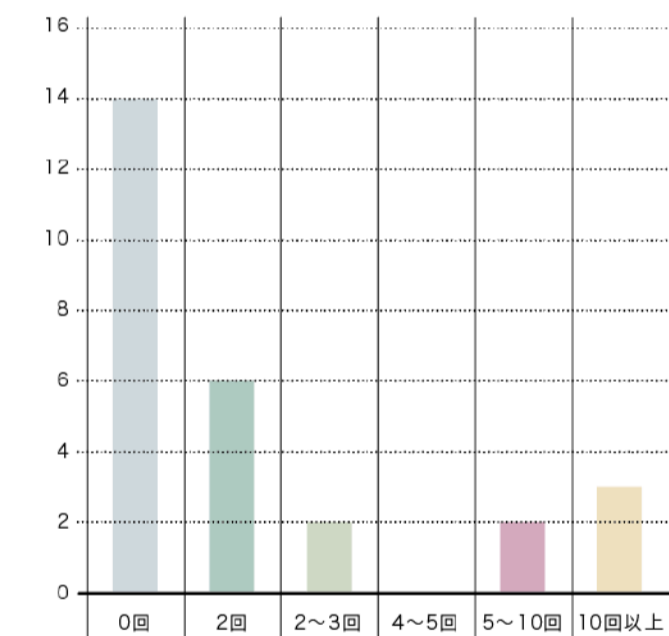


令和元年は「音楽活動の各公民館の利用回数」において、上半期は前年度を上回る高い活動率を示しているが、10月からの平均活動率は落ち込み、3月にはほとんどの活動が自粛されている。その影響からイベント回数のグラフは5回以上活動した団体が減少している。

R元年度1～3月イベント回数



R元年度3月以降のイベント予定数



上記のコロナウィルス感染予防対策期間に関して、グラフを見ると50～60%の団体および個人、音楽教室等の活動は0回となっているが、約30%は2～5回と回答しており、音楽活動を縮小して活動している。また5回以上の活動、もしくは変わらず活動を続けていると回答した団体は約15%集計している。その中で令和2年度の1月まで、活動を再開できていない団体または個人や音楽教室は65%あり、逆に30%は既に再開され、5%は一部のみ再開と回答している。グラフでは令和元年3月以降から活動できる団体とできない団体が二分化されている。

おおよそ50%の団体及び個人は2021年度の東京オリンピック前までに活動を再開したいと回答し、40%の団体及び個人はオリンピック後に再開、3%は再開を断念している結果となった。

今後の音楽活動における感染予防対策

今後の音楽活動の復帰を考えるためには、主催者の不安を取り除く為の対策を講じた環境を配備できるかが重要とされている。この環境配備には社会が一体となって感染予防対策を取っていく双方の協力が不可欠である。活動の再開に対して不安な事項の回答に最も多いのは“コロナウィルスによるクラスター感染”で、回答者のおよそ70%が不安に感じている。徹底した感染予防対策をとることでこの可能性は低くなるが、音楽を聴くためにどの程度の予防対策を取るべきか主催者としての判断は重たい決断となる。江別市のチェックリストでは以下のような項目を設けている。

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| ①消毒の徹底 | ⑥密集の回避 |
| ②マスクの着用 | ⑦演者と観客間の接触・飛沫リスクの排除 |
| ③参加者及び出演者の制限 | ⑧催し物前後の行動管理 |
| ④参加者の把握 | ⑨業種別ガイドラインの遵守 |
| ⑤大声の抑止 | ⑩イベント主催者及び施設管理者の双方による感染防止の取組の公表 |

①消毒の徹底に関して

目のつきやすいところにアルコールや消毒液を設置する事、また楽器を使用する場合は楽器自体に適した消毒をすることになるので、ホール側の用意もあるが、主催者の責任で消毒アルコールを準備して設置すること、さらに参加者、出演者全員にこまめな消毒を実施するための、感染予防対策担当者が必要である。

②マスクの着用

参加者全員を入館受付時にチェックし、主催者側でもマスクを用意しておくが良い。マスクの種類については国立研究開発法人「理化学研究所」(理研)、豊橋技術科学大学のプレスリリースの研究結果を参考にすると良い。

| マスクの形態 | 息を吐く時の飛沫量 | 息を吸うときの飛沫量 |
|----------|-----------|------------|
| 不織布マスク | 20% | 30% |
| 布マスク | 18~34% | 55~65% |
| ウレタンマスク | 50% | 60~70% |
| フェイスシールド | 80% | 効果無し |
| マウスシールド | 90% | 効果無し |

マスクの形状や品質によっても変化するが、基本的に息を吸いにくいマスクは効果があるとされている。楽器演奏や、声楽において息を扱いにくい状態での演奏は本来の音質を損ねることに繋がり、また健康面を考慮してマスクをしたままの歌唱は大変困難である。そのため歌唱しやすい合唱マスク(首まで覆うマスク)やインナーマスク(マスク内に空間を保つもの)などさまざまな工夫がされたマスクが開発されているが、現状では距離を保って歌唱(もしくは演奏)し、換気をこまめにする事と、空間エアロゾルのながれを計算し、空気感染予防対策をとることが重要とされている。

③参加者及び出演者の制限

出演者の健康状態を把握するために、主催者及び感染予防対策担当者は検温の実施を練習時からこまめに取っておく必要がある。また潜伏期間の長いウィルスは、活動する際、周囲の感染状況を把握するためにSNS等で情報を取得することが重要である。また現場では参加者の健康状態や、周囲の感染状況などを把握しても、練習中止や公演中止といった判断が難しいので、常に客観的に状況を把握できるように心がけてはいけない。参加者に連絡先を記載してもらい、常に主催者が把握できる範囲内で制限することが望ましい。

④参加者の把握

参加者、出演者の動向記録を付けるためにリストを作成し、体温、入館時刻、退館時刻、公演時は座席位置が把握できると万が一感染者が出た場合に対応がスムーズ化する。また保健所が定める濃厚接触者の判断基準としてウレタンマスクと不織布マスクの対応が違ってくるので来場時のチェック項目を増やし時間をかけるべきである。これまで多くの公演は30分前に開場時間としていたが、例えば45分間の開場時間を設けるなど事前の対応に時間をかけることが重要である。公演は指定席にし、参加者は氏名と連絡先の提出、主催者は検温、マスクの種類、大体の年齢、健康状況の所見など、声かけをしながらチェックをする事で、未然に感染リスクを軽減することができる。

⑤大声の抑止

出演者は声楽、合唱の練習、または公演時に大声を出さないというわけにはいかないで、出演者側の体調管理は入念に行う必要がある。そのために主催者、感染予防対策担当者は検査、体調チェック表など練習時からメンバーのカルテを作成し、記載した上で活動を始めることが望ましい。参加者については前後左右の間隔が比較的狭い状況で歓声をあげることは控えるよう事前にアナウンスする。

⑥密集の回避

通常公演の場合、入館時と退館時、また休憩時に参加者が密集することが多い。例えば開場時間をグループ毎にずらすことや、退館を座席順に誘導するといった方法、休憩時にできるだけ時間をとり、館内を換気するなど時間をかけた対応をすることが望ましい。出演者は密集しないように席を配置して換気の整った部屋で待機、劇においては出演者が接近した状態を続けないように演出プランを立て、なるべく舞台上の密集を避けなければならない。その反面、会場の環境を変えることで室内の温度低下、花粉症や寒暖差アレルギーなど免疫力を下げる要因にならないように気をつけなくてはならない。

⑦演者と観客間の接触・飛沫リスクの排除

長時間の練習は避け、公演時は舞台から2メートル以上の距離を取って客席の前列を配置する。参加者と出演者の接触を避けるために、チケットの廃止(QRコードで入場管理をする)、もしくはチケットの裏面に参加者名と連絡先を書いてもらい提出、受付での精算廃止(ネット決済や振り込みを使う)、パンフレット等の手渡し廃止(モニターでプログラムや対訳、公演情報を流す)、終演後の挨拶、公演祝いなどを廃止、接触する機会を減らし、受付の業務を感染予防対策に集中させることが大切である。

⑧催し物前後の行動管理

交通機関の混雑、イベント後の打ち上げなど、密集する可能性のある利用は公演期間中なるべく控え、公演終了後は出演者、参加者共に解散するように心がける。

⑨業種別ガイドラインの遵守

音楽活動の場合は大きく“息を伴う楽器”と“接触を伴う楽器”に分けられる。特に“息を伴う楽器”については感染リスクが高いとされ、それぞれの楽器について感染予防対策の取り方が細かく分けられているので、楽器の特徴をしっかりと捉えた上で活動しなければならない。

⑩イベント主催者及び施設管理者の双方による感染防止の取組みの公表

各イベントの主催者は、出演者、参加者に感染予防対策の取組み方を分かりやすく提案しなくてはいけない。また公演会場の施設管理者が利用時の感染予防対策を明確に提案し、双方で取組みながら参加者全員の意識を高めてはいけない。

おわりに

江別市の芸術文化を担う3つの公民館と各地区センター、また市民会館は連携して感染予防対策をとっており、各館の特徴に合わせたチェックリストの作成や注意喚起を行っています。文化祭や各会館の催しはそれぞれ特色を持ち、江別市の文化史と共に継続した事業となっており、音楽のみならず、陶芸や工芸、美術、演劇など様々な文化活動をしている愛好家やアーティストがそれぞれの地域を発信源として活躍を続けています。江別市は昭和25年より青年会や婦人会が意欲的に様々な催しを企画し、この地域に文化の土台を作りました。こうした市民の努力が実ってようやく昭和33年に公民館の開設にこぎつけた経緯があります。そのことをきっかけに文化教室が発展し、昭和40年に当時の中央公民館館長が中心となって江別市文化協会の創立、そして市内の文化団体育成を財政面から援助することを目的として文化振興会が発足しました。56周年を迎えた文化協会と共に多くの団体が江別で活動し、江別市の文化発展とともに歩んでいます。こうした歴史の深い江別市の文化活動と共に少子高齢化現象が進み、高齢者人口は増え、教育委員会は生涯学習として、高齢者がスポーツ、芸術といった文化活動や社会的能力を高められるように昭和50年に聚楽学園を開設、生産人口年齢が高齢化していく中、生涯学習の充実化は大切な役割を果たしています。一方で若い世代の音楽活動はスタイルを変え、大都市に向けたアプローチやSNS、ネット媒体を使った配信など、既に時代は場所を選ばず活動ができる方向を示しています。

芸術には人と人を結びつける力があり、人はその多様性に常に新しい発想を求めています。この新型コロナウイルスにおいて活動休止になっている団体、その反面でネット配信や収録、オンライン発信をしている団体、もしくは無観客でハイブリット配信をするなど、音楽活動の在り方が急激に変化しています。今後はこの2つの尺度から江別市の音楽活動を考察しながら、感染予防対策と共に生きる音楽文化の発展を見つめ、いち早く本来の音楽活動に戻れるように調査研究を進めていきたいと思います。本研究調査にご協力いただいた市役所総務課の難波愛華さん、教育委員会の布施隼人さん始め、市民会館、各会館の関係者の皆様、アンケートにご協力いただいた江別市民の皆様にあらためてお礼申し上げます。

令和2年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市における文化活動調査に基づくアートマップ作成

「令和2年江別市芸術文化活動調査研究」

北翔大学 教育文化学部 教育学科 音楽コース 843研究室 連携調査事業研究チーム
岡元敦司(おかもと あつし) / 石田実和(いしだ みわ) / 鈴木遥夏(すずき はるか) / 上坂麻樹(うえさか まき)

江別音楽関連施設MAP

